



発行所

東京九嶺宮原同窓会事務局

〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台7-21-26-508

末永俊幸方

電話 090-6943-8065

印刷：泰成印刷株式会社

電話 03-3631-8141

子供たちの為の

二つの企画



東京九嶺宮原同窓会

会長 原 武

(宮原9回)

今の日本は、このところ親が子供を殺し、子供が親を殺すという信じられないような悲しい事件が起こっています。また学校では生徒のいじめが大きな社会問題になっています。文部科学省によると18年度の学校のいじめの件数は、小・中・高で過去最高の約54万件だったそうです。対前年比で31・3パーセントの増、約13万件も増えているそうです。中学で21パーセントの増、高校で19・7パーセントの増、小学校が最も多く、34・3パーセント増えているそうです。そしてこの中で学校が把握している自殺に至った子供は390人との事で、こうした傾向は年々増えてきているそうです。この理由は家庭環境の変化や社会状況の変化が大きな理由と考えられますが、少子化に向かう時代、なんとかしなければなりません。改めて情操教育の必要性を感じます。

情操教育とは、子供たちの豊かな感情や情緒を育むと同時に、道徳感や生き物や草花への思いやりなど「子供の心を育てる教育」です。その為には、子供たちに体育や音楽、美術に触れる機会を多く作る必要があります。とりわけ芸術の分野が大事だと思います。音楽は人の心に安らぎや、慰め、そして希望を与えてくれるからです。また絵を見たり絵を描く事も人の心に夢や希望を与えてくれます。

こうした中、呉市では子供たちの為に二つの企画が昨年誕生しました。一つは教育委員会が中心となり、呉信用金庫ホールの協力で、呉市の全小学5年生の生徒約1,600人を対象に、ニューヨークのカーネギーホールのプログラム「リンクアップ」を札幌市に続いて展開しました。これは広島交響楽団と呉市の全小学5年生が、学校をあげての準備を行い、客席でオーケストラとリコーダーやコーラスで生の共演を行うというプログラムです。また子供たちはオーケストラの楽器の仕組みを知り、模範演奏も聴くという立体的でアクティブなコンサートなのです。単に客席でオーケストラの演奏を聴く、と云うプログラムでは有りませんが、今年も2回目が見られています。子供たちとオーケストラが一体となり、生き生きとした子供たちの表情や明るい感情がとても印象的なプログラムでした。

もう一つは、呉市下蒲刈町の蘭島閣美術館で行われた幼稚園の年長組から小6までの子供を対象に行われた企画、「ミュージック&アーツであそぼう」と云う企画です。フルーティストの高木綾子さんとピアニストの坂野伊都子さんの演奏で、それに豊島のイラストレーターのおりでちせさんに絵の指導をしてもらう、と云うもので、題名を告げずフルートの小品を吹いてもらい、子供たちはそれを聴いて思いついた絵をクレヨンで描いてもらう企画です。子供たちの豊かな想像力を生み出すのがねらいですが、美術館のフロアで18人の子供達は、それぞれ感じた独自の絵や図形を描いてくれ、その発表やほかの子供達の描いた絵の意見を語るなど、子供たちが生き生きと想像力を発揮してくれました。途中芸員による美術館の絵の鑑賞も行いなど、立体的な企画でした。

今年も7月に実施の予定だそうです。呉市の文化活動への理解と支援でこうした情操教育の一環ともいえる二つの子供企画が他の地域に先駆けて生まれた事は素晴らしい事だと思います。子供たちの将来が、心豊かで平和な世界になるように願いたいものです。